

対話でつなぐ授業 一考察

岩瀬 竜弥



指導員訪問③

2年 図画工作科 「えのぐじま」 柴田 惇志 教諭

想像の世界を筆を使って自由に表現し、さまざまな表現が生まれるよさを十分に味わいたい。柴田教諭は、お話を読み、想像を掻き立て、画用紙にいきいきに描かせました。絵の具を使って描きたい模様を見つけ出し、表現したいことを考えることができたかどうか为目标です。

柴田教諭は、子供たちに「未来は明るい」ことを伝えたいと常日頃から願っています。大学時代、海外で勉強する機会があり、そこで、①教師になって子供とかかわる、②カフェなど楽しく仕事をする、とじっくり考え、悩みました。②は「いつでもできる」、①は「若い今しかできない」と。「ありがとう」「仲間を助ける」を大切にしているからこそ、子供も安心して考えを表出しています。

さて、本時では、共同絵の具を使い描き上げあとに、互いの絵を鑑賞し、気に入った作品の紹介へ。学んだ技法（点・線・面、筆使い、筆の違いなど）や視点によるずれを軸にして、キーワード「絵の具が溢れ出て」「虹のふるさと」と作品、さらに思いやストーリーを関連づけてクラス対話を設定。



T：(C1の作品を提示)
 C：C1は、島がある。
 C：わあー
 C：イルカがいるみたい。
 T：何か思ったことある？
 C：虹がきれい。
 C：ヤシの木が上手にかけてる。
 C1：てんてん技 (授業記録より)

を設定。「なみわざまいたいにカラフル」「色の組み合わせがきれい」とよさを説明。「果物があつておもしろい」

と発想に心を奪われた子も。子供が選択した8つの作品のうち、最も反応があったのがC1作品です。

虹、ヤシの木そのままの描写によさを感じた子供たちです。みなさんならどう展開しますか？ 私なら、下のC2作品を出合わせます。「これはどういうところかな？」と本人に、あるいは子供たちに問うことで、山を虹で表現した思いやストーリーを考えます。ここから、技法のよさや違う視点に再度目を向け、自分の作品を見直すのではないのでしょうか。協議会でも、教師が用意した作品提示も議論されました。

表現の幅を広げる想像の世界を子供たち。きっと、お話が止まりませんよ。



C2作品 (※一部切り取り)

